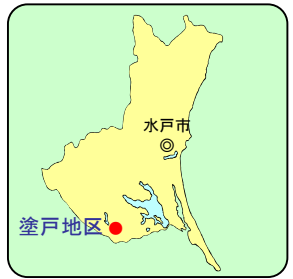


安定的な農業経営の確立

ぬると りゅうがさきし
塗戸地区(茨城県龍ヶ崎市)

地区の概要

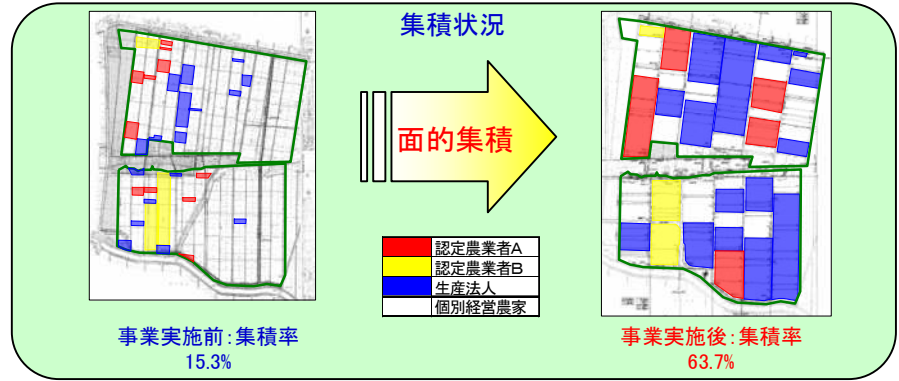


事業名	経営育成基盤整備事業 (旧ほ場整備, 担い手)
受益面積	63.2ha
工期	H13~H21
総事業費	1,378百万円
土地改良区等	豊田新利根土地改良区
農業経営のタイプ	生産法人1人と個別経営農家 2名へ農地利用集積を図る。 水稲+麦・大豆を主体とした営農類型 である。
関係土地改良事務所	県南農林事務所稲敷土地改良事務所

地区の紹介

- (1) 抱えていた課題
- ①経営意欲の低下、後継者の不足 ← 第2種兼業農家が多く、農業従事者も高齢化が進行
 - ②低い生産性 ← 経営規模が零細(平均0.5ha以下)
ほ場が分散し小区画(平均10a以下)
← 農業機械や設備を個別に保有
- (2) 実施内容
- ①規模拡大志向農家への集積 → 3担い手へ(認定農業者2名、生産法人1法人)
 - ②農業生産基盤の整備 → ほ場の大区画化、農道の整備、用水のバイブライニング、排水施設の整備による汎用化
- (3) 効果など
- ①農地利用集積による担い手の規模拡大(H20末現在)
 - ・認定農業者2名 : 13.62ha(21.6%)
 - ・生産法人1法人 : 26.61ha(42.1%)
 - ・担い手合計 : 40.23ha(63.7%)
 - ※実施前 : 9.79ha(15.3%)
 - ②大区画化、大型機械化等による生産性の向上
 - ・ほ場の大区画化 : 45.4ha(71.8%)
 - ・作業体系の向上 : 中小型機械体系 → 大型機械体系
 - ・用排水施設の整備 : 農地の質的向上、畑利用の拡大
- 機械・施設の効率的な利用とほ場の高度利用が可能となり、安定的な農業経営が確立

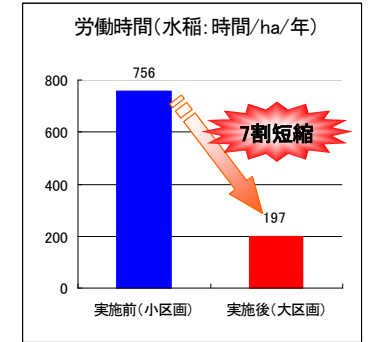
事業の実施により農地の集団化と大区画化が図られ、事業を契機に農地利用集積が進みました。



担い手への利用集積の概要

区分	実施前 (H11年度)			実施後 (H20年現在)		
	耕作面積	割合%	戸数	耕作面積	割合%	戸数
①担い手	9.79	15.3	3	40.23	63.7	3
・認定農業者A	2.01	3.2	1	9.53	15.1	1
・認定農業者B	4.09	6.4	1	4.09	6.5	1
・生産法人	3.69	5.8	1	26.61	42.1	1
②個別経営農家	49.62	77.8	92	20.77	32.9	30
③その他	4.39	6.9	30	2.20	3.5	13
計(①~③)	63.80	100.0	125	63.20	100.0	115

作業委託農家 69



ほ場の大区画化による大型機械の導入等、農作業の大幅な効率アップが図れました。